

特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン

2012年度年次報告書

チャイルド・ファンド・ジャパンは、
1975年より、アジアを中心に貧困の中で
暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の
自立を目指した活動をしています



理事長挨拶

皆様には、温かいご理解と大きなご協力をチャイルド・ファンド・ジャパンにお寄せくださり、深く感謝を申し上げます。また、東日本大震災により被災され、今もなお不自由な生活を強いられている方々に心からお見舞いを申し上げます。

国外に目を転じますと、依然として、世界のいたる所で、貧しさ、紛争、自然災害などにより、たくさん子どもたちの命が脅かされ、人間の尊厳が脅威にさらされています。そうした現実の中でチャイルド・ファンド・ジャパンは、2012年度も、フィリピン、ネパール、スリランカでの協力活動を縮小したり質を低下させることなく、子どもたちの健やかな成長、家族と地域の人々の生活改善を支援することができました。これはひとえに支援者の皆様の温かいご協力によることであり、ここに改めて心から感謝を申し上げます。

また、私どもは、2011年3月より、岩手県大船渡市を中心に「緊急・復興支援事業」に携わってきましたが、その活動を2013年3月末で終了いたしました。この間、国内外から大きなご支援をいただくとともに、大船渡市の戸田公明市長はじめ市民の皆様にはチャイルド・ファンド・ジャパンを復興のパートナーとして受け入れていただきましたことを心から御礼を申し上げます。

さて、去る2013年5月7日、当団体の前身、社会福祉法人基督教児童福祉会(CCWA)・国際精神里親運動部で長く部長をされた大谷嘉朗先生が91年の生涯を全うされました。私は、訃報に接した時、「CCWA創立30周年記念誌」に収められている大谷先生の講演録の一文を思い起こしました。大谷先生は、「生きていく喜びを共にすると同時に、また悲しいものと共に悲しむという、『心と心のふれ合う運動』が国際精神里親運動(現在のスポンサーシップ・プログラム)である」と言われました。これは、聖書の「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」という言葉にも通ずるものです。チャイルド・ファンド・ジャパンは、これからも大谷先生はじめ先達たちが目指した『心と心のふれ合う愛の運動』の充実に励んで参ります。皆様には、今後とも引き続き温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長 深町 正信

ChildFund Japan
Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標) すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成
愛のバトンタッチ
チャイルド・ファンド・ジャパンは、第二次世界大戦後、海外からの支援を通して、日本の戦災孤児の成長を守ることから活動を始めました。時代が変わり、支援の受け手から担い手へと立場が変わっても、そこに一人ひとりの子どもが希望を持って生きることのできる社会を目指す姿勢は変わりません。

ミッション(使命) 生かす生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る
子どもの笑顔のために
チャイルド・ファンド・ジャパンは、ビジョンを達成するために、支援を通じてつながるすべての人々が、様々な違いを超えて、お互いが人生に意味を見出し、「生きていてよかった」と思える国際協力を実践することを通して、子どもの権利を最優先に位置づけた活動を展開します。

目次

理事長挨拶 理事長 深町 正信	2
チャイルド・ファンド・ジャパン事業概要 支援者数と支援チャイルド数の3ヵ年推移	3
広報・啓発・提言事業	4-5
支援事業 2012年度の概要	6-7
スポンサーシップ・プログラム	8-9
支援プロジェクト-フィリピン、ネパール	10-12
2012年度会計報告	13-15
東日本大震災緊急・復興支援事業	16-18
組織図・役員名簿	19
FREEキャンペーンについて チャイルド・ファンド・アライアンスについて	20

チャイルド・ファンド・ジャパン事業概要

1.地域開発支援事業(P8-11)

●スポンサーシップ・プログラム(P8-9)

スポンサーとチャイルドとの一対一のつながりを通して、子どもの健全な成長と地域の自立を目指した包括的な支援を行います。

2012年度は、フィリピンで18カ所、スリランカで2カ所、ネパールで1カ所の協力センターに対して支援を行いました。

●支援プロジェクト(P10-11)

貧困に起因する様々な問題の中で、特定の開発課題に応える支援事業です。2012年度はフィリピンで2件、ネパールで2件のプロジェクトを実施しました。



2.緊急・復興支援事業(P12,P16-18)

台風や地震などの自然災害の被災者や、地域紛争による避難民を支援します。

2012年度は、フィリピンで2件の台風被害への支援事業と、岩手県大船渡市で東日本大震災への緊急・復興支援事業を実施しました。



3.広報・啓発・提言事業(P4-5)

国内でチャイルド・ファンド・ジャパンの活動を広め、理解を深めていただくための事業です。

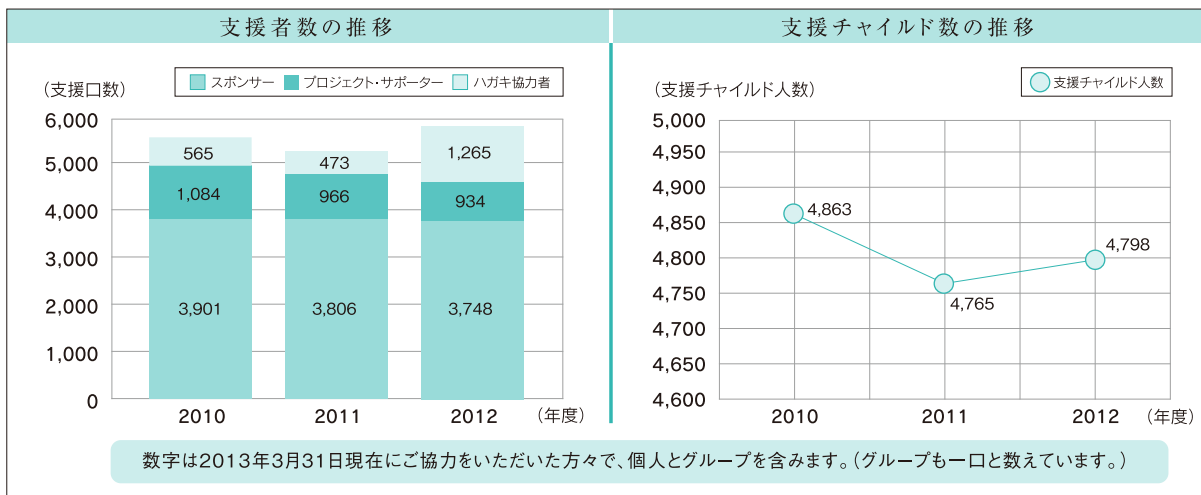
「杉並区民の手でネパールに小学校を!」キャンペーンの実施をはじめ、イベントへの出展を行いました。また、JANIC(国際協力NGOセンター)などのネットワーク組織に参加し、国内のNGOとの連携を図りました。



支援者数と支援チャイルド数の3ヵ年推移

2012年度は、合計5,947名の方がスポンサー、プロジェクトサポーター、ハガキ協力者として活動を支援してくださいました。ハガキ協力者数が800名近く増えましたが、スポンサー新規入会者数は193名(前年比3名増)、支援を受けているチャイルド数は4,798名(前年比33名増)の微増となり、退会者数は微減の269名(前年比29名減)でした。東日本大震災の影響を受けた2011年度の厳しい状況から、2012年度の入退会者数や支援チャイルド数はやや持ち直したものの、スポンサー数の減少に歯止めはかからず、58名の減員でした。

一人でも多くのチャイルドを支援できるよう、引き続き皆様の温かいご協力とご支援を今後ともよろしくお願いいたします。*数字はいずれも2013年3月31日時点



広報・啓発・提言事業

イベント・キャンペーン

チャイルド・ファンド・ジャパンの活動の輪を広げるため、様々なイベント・キャンペーンを実施しました。

■「杉並区民の手でネパールに学校を！」キャンペーン第3弾

杉並区の皆様から書き損じハガキや未使用切手を送っていただき、ネパールの小学校建設のために活用する「杉並区民の手でネパールに学校を！」キャンペーンを実施しました。第3弾となる今回は、2012年の12月から2013年3月末までに、201名の個人・団体から、合計603,366円分の書き損じハガキや未使用切手を送っていただきました。ご協力くださった皆様に、心よりお礼申し上げます。



ネパール大使館で記念パネルの贈呈式を行いました。沢山のハガキ・切手を集めてくださった杉並第一小学校と立教女学院小学校の6名の児童の皆さんが参加してくださいました。

大使館では、在日本ネパール国特命全権大使マダン・クマール・バッタライ閣下が温かく迎えてくださり、子どもたちからのネパールに関する質問ひとつひとつに丁寧に答えてくださいました。

完成する小学校の校舎には杉並区のキャラクター「なみすけ」を描いた記念パネルが埋め込まれます。

企業・団体からのご協力

スポンサーシップ・プログラム、支援プロジェクト、書き損じハガキなどさまざまな方法を通して多くの企業、団体から支援を受けています。その中でも、チャイルド・ファンド・ジャパンを長年に渡り支援し続けてくださっている企業・団体をご紹介します。

・有限会社 ACCESS21

・JX日鉱日石エネルギー株式会社

・有限会社 あいき金物店

・アーバン・セキュリティ・サービス・オオサカ株式会社

・有限会社 いっ歩

・沖電気工業株式会社

・株式会社 カカコム

・キーコーヒー株式会社

・キッコマン株式会社

・株式会社 さつき自動車

・三裕通商株式会社

・サンライフ株式会社

・有限会社 シーエスサービス

・有限会社 シナリーフローラ

・株式会社 ジョイフェロー

・株式会社 聖徳電気商会

・聖徳ビル企画株式会社

・湘南レーベル株式会社

・有限会社 聖心セレモニー

・ソニー株式会社

・株式会社 たのやく出版

・テンプスタッフ・クロス株式会社
(ななtanプロジェクト)

・株式会社 東京損害生命保険

・株式会社 東京富士カラー

・株式会社 東横INN(全店舗)

・株式会社 東横INN電建

・株式会社 ドリーム・チーム

・日本たばこ産業株式会社

・有限会社 八戸クリニックビル

・株式会社 日立ハイテクノロジーズ

・株式会社 ホテル高輪

(敬称略、五十音順)

この他多くの企業・団体からご支援をいただきました。

■デルタ航空によるご協力

デルタ航空の「スカイウィッシュ・アジア」は、貯まったマイルを寄付するプログラムです。ご寄付いただいたマイルは、航空券に換え、スタッフが支援活動のため出張する際に活用しています。デルタ航空をご利用の際は是非ご協力ください!詳しくはチャイルド・ファンド・ジャパンのホームページ(<http://www.childfund.or.jp/?cat=17>)をご覧ください。



■株式会社サンメディカルによるご支援

チャイルド・ファンド・ジャパンは、2012年11月3日、平田球場(岩手県釜石市)で行われた第8回沿岸南部杯少年野球大会の決勝戦の開催を支援しました。これは、スポンサーとしてもご支援くださる株式会社サンメディカル(岩田利彦会長、本社:愛知県名古屋市)が主催した「復興支援チャリティゴルフ大会」からのご寄付によって開催されました。

また、2012年12月6日にも「復興支援チャリティゴルフ大会」を主催し、東日本大震災の復興支援のためにご寄付くださいました。

NGO・政府機関との連携・協働

より効果的な支援活動を行うため、チャイルド・ファンド・ジャパンは、他のNGOや政府機関と協力しています。

- ・GII/IDI(保険分野NGOネットワーク)
- ・JANIC(国際協力NGOセンター)
- ・JNNE(教育協力NGOネットワーク)
- ・NGO・労働組合国際協働フォーラム
- ・動く→動かす(GCAP)
- ・子どもの権利条約NGOグループ
- ・認定NPO法人ネットワーク (五十音順)

アドボカシー

■国連に提言書を提出

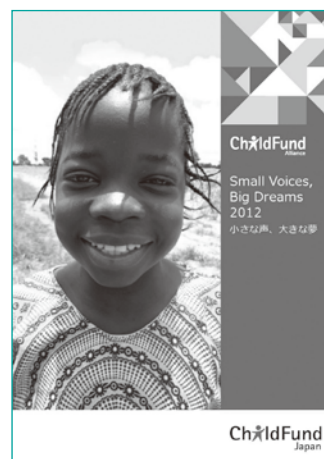
チャイルド・ファンド・ジャパンが加盟する、チャイルド・ファンド・アライアンス事務局長のジム・エマソンは、2013年3月25日にニューヨークのユニセフ本部で開催された「子どもに対する暴力防止の取り組みをポスト2015年開発アジェンダに含める重要性」について話し合うハイレベル会合に、パネリストとして参加しました。

チャイルド・ファンド・アライアンスは、この会合と日と同じくしてバリ(インドネシア)で開催された国連ハイレベルパネルの第4回会合にも参加し、子どもを暴力から守る取り組みの重要性を訴えました。

■“Small Voices Big Dreams”～子どもたちの小さな声 大きな夢～

“Small Voices Big Dreams”は、チャイルド・ファンド・アライアンスに加盟する12の団体が、世界の子どもたちを対象に実施するアンケート調査です。第3回目の実施となる2012年は、「希望、夢、恐れ」をテーマとして、全世界47カ国、6,204名の子どもたちに参加してもらい、調査を行いました。

2012年は日本国内でも実施し、約80名の小学生が調査に協力してくれました。10歳から12歳の子どもたちに「あなたがもし国のリーダーだったら、子どもの生活をより良くするために何をしますか?」など、6つの質問に答えてもらいました。結果報告書は団体ホームページからダウンロードできますので、ぜひご一読ください。



その他のご協力

■書き損じハガキ・未使用切手

2012年度は、日本全国の多くの方々から、沢山の書き損じハガキ・未使用切手を送っていただき、個人や、学校、企業などの団体1,851名の方々から、8,872,188円分ものご支援をいただきました。2012年4月1日から12月31日までにお送りいただいた分は「子どもが読書に親しむプロジェクト」のために活用し、2013年1月1日から3月31日までにお送りいただいた分は「子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト」のために活用いたしました。

書き損じハガキ・未使用切手は、年間を通して集めています。

■ボランティア

来所ボランティア、在宅ボランティア、イベントボランティアなど、多くの方々からご協力いただいています。チャイルドの手紙や成長記録の翻訳、寄付されたハガキや切手の仕訳、広報物の発送作業、イベント実施など多岐にわたって活動を支援していただきました。

Twitterとfacebookでも積極的に情報発信しています!

Twitter

<http://twitter.com/#!/ChildFundJapan>

Facebook

<http://www.facebook.com/ChildFundJapan>

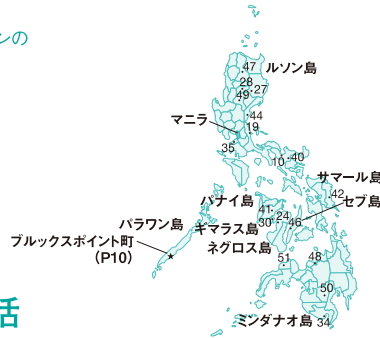


支援事業 2012年度の概要

《フィリピン since 1975》

フィリピンでは18カ所の協力センターで、貧困世帯に属する4,196人の子どもたちや家族の生活改善に協力しました。その他に支援プロジェクト2つと、緊急支援事業2つを実施しました。

※数字はチャイルド・ファンド・ジャパンの協力センター番号です。



フィリピン事務所所長
リナ・ムンサヤック

2012年度の総括

フィリピンの情勢

2012年、フィリピン経済は6.6%の成長を遂げましたが貧困の削減にはつながりませんでした。フィリピン国家統計調整委員会(National Statistical Coordination Board: NSCB)によると、貧困率は27%~28%の間で2006年からほとんど変わっていません。フィリピンに暮らす子どものうち、44%が、貧困状況にあると言われています。

スポンサーシップ・プログラム

2012年度は、チャイルド・ファンド・ジャパンが実施するスポンサーシップ・プログラムによって、4,196人のフィリピンの子どもたちが支援を受けました。チャイルド・ファンド・ジャパン フィリピン事務所と18の協力センターによって、公教育や健康のサポートなどのプログラムを実施することができました。

公教育以外では、本の読み聞かせや、スポーツ、ゲームなどの活動を実施し、協力センターによってはリーダーシップ・トレーニングや環境保護のための活動を実施したところもありました。

フィリピンでは毎年多くの台風被害が発生するため、多くの協力センターで、災害対応のトレーニングを実施しました。チャイルドの親たちには、親としての責任を自覚する研修、家庭菜園の普及、生活向上のための講習や技術訓練などを受ける機会を提供しました。

支援プロジェクト

2012年度は「パラワン少数民族生活改善プロジェクト」と「子どもが読書に親しむプロジェクト」を実施し、どちらも最終年度となりました。「子どもが読書に親しむプロジェクト」では57校、161名の教員・校長に教育方法の研修を提供することができ、3,900名以上の子どもたちがその恩恵を直接受けることができました。また、計19,900冊以上の本がそれらの学校の図書館に寄贈されました。このプロジェクトの最大の成果は、読解力と成績の向上です。子どもたちは本を読むことの楽しさを覚え、授業に積極的に参加するようになりました。

Regina Munsayac
MA REGINA M. MUNSAYAC
Country Office Director

《ネパール since 1995》

ネパールでは、スポンサーシップ・プログラムとして1カ所の協力センターが293人の子どもたちへの教育支援や家族の生活改善のための支援を実施しました。このほか、2つの支援プロジェクトを実施しました。

※数字はチャイルド・ファンド・ジャパンの協力センター番号です。



ネパール事務所所長
田中真理子

2012年度の総括

昨年度をふりかえって

ネパールが共和制となり4年経ちましたが、未だに新憲法が發布されず、不安定な政治が続いています。長引く停電、燃料・水不足、労働争議、政情不安などにより、インフレ率も4年連続して8%以上となっています。農村から都市部への人口移動も加速され、海外出稼ぎ者数も増加しており、支援地域でも同様の傾向が見られました。

2012年度の活動内容

今年度は初めて、チャイルドたちがピクニックをしました。10のグループに分かれ、屋外で焚き火をしてカレー料理を作り、歌や踊り、ゲームやクイズなどをして、思い出深い一日となりました。学習が遅れている156名のチャイルドは、学校の補習授業に参加し、そのうち87%の子どもが進級できました。また、制服や文房具、学年によっては副教材なども支給しました。親たちもより多くの責任を果たすようになり、出生証明書を持つ子どもは83%から91%に増えました。97%のチャイルドが駆虫剤を使い、17の家庭がトイレを作りました。学校への出席率が75%以上のチャイルドの割合は、昨年度の58%から75%に増え、成績が45%以上で進級したチャイルドの割合も、昨年度の38%から41%に増えました。

スポンサーシップ事業に加え、公立校を対象とした「子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト」を継続しました。また、新たな郡(シンドゥパルチョーク郡)でスポンサーシップ・プログラム開始の準備のための「ネパール新支援地域準備プロジェクトを開始しました。

次年度に向けての課題

2012年度、学校を中退して働くことを決めたり、結婚を理由に支援を離れたチャイルドが17名いました。その背景には、「学校の成績が悪い→進級できない→中退・結婚・出産→子どもの宿題をみる学力がない・教育への関心が低い→子どもの成績が悪い」という悪循環があります。学校に子どもが毎日通い学年末に進級できれば、貧困家庭の親たちも子どもを積極的に学校に通わせます。今後の取り組みとして、チャイルドと家族のみならず、地域の学校教育の質の向上への働きかけを強めていきます。

田中真理子

《スリランカ since 2006》

スリランカでは2カ所の協力センターで、貧困世帯に属する309人の子どもたちや家族の生活改善に協力しました。

※数字はチャイルド・ファンド・ジャパンの協力センター番号です。



チャイルド・ファンド・スリランカ事務所所長
エノレア・ラウドン

2012年度の総括

2012年度はチャイルド・ファンド・スリランカにとって堅調な年となりました。多くのプログラムを実施し、良い結果を得ることができました。スリランカは成長を続け、ミレニアム開発目標の全ての指標において改善が見られます。国全体としては着実に前進していますが、まだ支援を必要とする地域も多く残っています。日本のスポンサーの皆さまが温かいご支援をくださる、プッタラムやティー・プランテーションもそのような地域です。それらの地域の家庭では、低い出生率と栄養状態の改善や、子どもの教育の充実に向けて、また、若者が安全で健康的な未来を得られるように、努力を続けています。

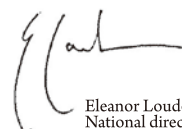
2012年度の活動内容

チャイルド・ファンド・ジャパンや皆様からのご支援によって、2012年度は以下のようなプログラムを実施することができました。

- ・幼児の発達とケア:センターの建物の改修、玩具の提供、水道や衛生の改善、教師への研修の実施、親と教師の関係強化などの支援を行いました。
- ・チャイルドへの教育:成績を向上させるための支援として、算数や英語、理科などの主要な科目の補習クラスを実施し、子ども同士の教え合いの仕組みをサポートしました。
- ・青年へのリーダーシップと技術訓練:青年たちが、未来のために創造的なビジョンを持てるよう、キャリアプランを計画するためのプログラムを実施し、ITやマーケティング、電子技術などの分野での職業訓練を提供しました。

ティー・プランテーションがあるヌワラ・エリヤに暮らし、日本のスポンサーの方から支援を受ける8歳の男の子のチャイルドが、次のように話してくれました。「前は水道がなかったので、水を汲みに行くために、0.5キロも歩く必要がありました。そのせいで、学校に遅れることがよくありました。でも、チャイルド・ファンド・スリランカが水道システムを設置してくれたんです。そのおかげで、今では十分な水があります。」

日本の皆様からの継続的なご支援に、心からお礼申し上げます。


Eleanor Loudon
National director

スポンサーシップ・プログラム

スポンサーシップ・プログラムは、スポンサーとチャイルドとのつながりを通して、子どもの健全な成長と地域の自立を目指した包括的な支援を行う事業です。このプログラムは、子どもの成長、家族の生活改善、住民主体の組織づくりなどを支援します。貧困の中で暮らす子どもが元気に成長し、家族や地域の人々が自分たちの力で問題を解決する力を身につけていきます。2012年度はフィリピン、ネパール、スリランカで4,798名のチャイルドを支援しました。

スポンサーシップ・プログラムの目指す2つのゴール

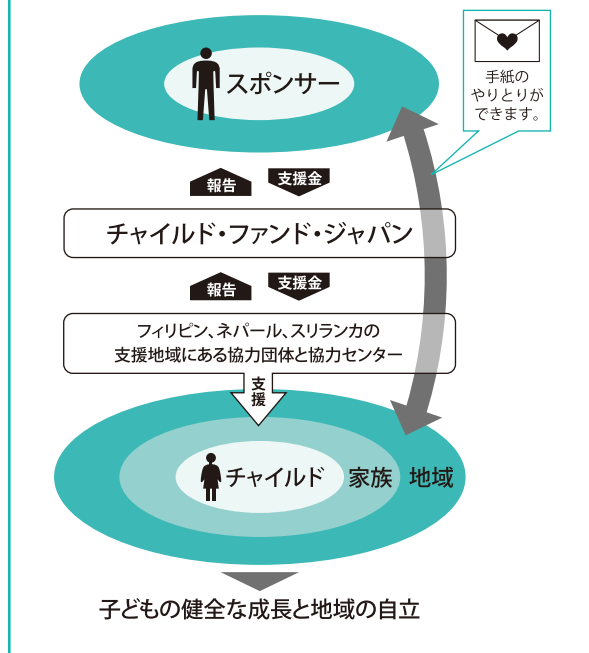
ゴール1 チャイルドの健全な成長

将来を担う子どもたちへの教育、健康に生活するために必要な保健・医療など、一人ひとりの必要に応じた支援をしています。チャイルドには担当のスタッフがつき、家庭や学校訪問をとおして日々の成長を見守っています。チャイルド・ファンド・ジャパンの協力センターでは、演劇や絵画を活動に取り入れれたり、子どもの権利について学び、自分らしさを伸ばしながら内面を育てることができるよう取り組んでいます。

ゴール2 地域の自立

チャイルドの家族や地域の人々へ、職業訓練や住民組織の立ち上げ、事業資金の融資などの支援をしています。人々が協力して自らの問題を解決していくことができるよう、中・長期的視野にたったプログラムを実施しています。支援を開始した1975年から2012年度末までに、フィリピン全土で計34カ所の協力センターが自立を達成しました。

スポンサーシップ・プログラムのしくみ



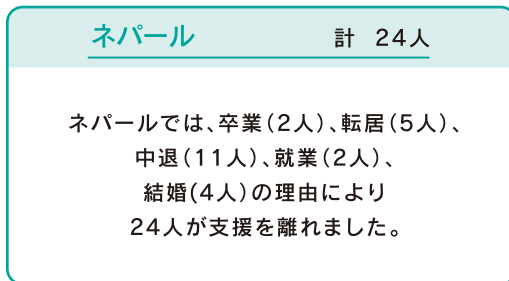
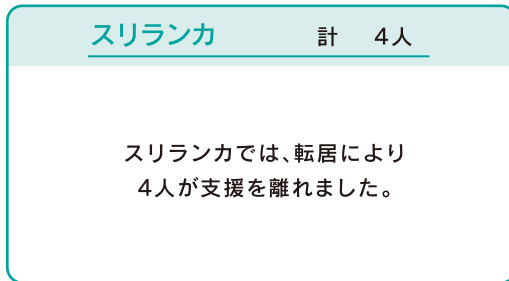
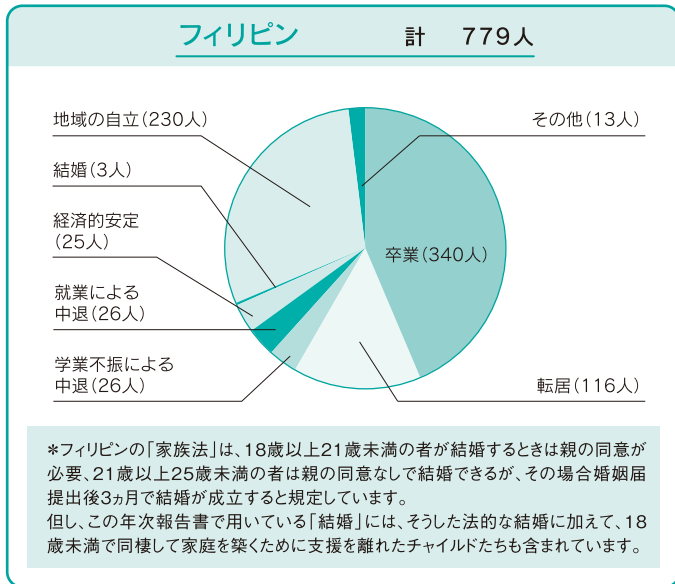
支援重点分野 1.子どもの成長 2.家族の生活改善 3.住民主体の組織作り

2012年度支援チャイルドデータ

■支援チャイルド数



■チャイルド・ファンド・ジャパンの支援を離れたチャイルド(2012年度)



《フィリピン・ネパール・スリランカ》



2012年度 チャイルド・ファンド・ジャパン協力センター 一覧

フィリピン協力センター				
センター番号	協力センター名	協力センターの運営団体	支援開始日	チャイルド定員数 ^{*1}
10	サンタ・ラファエラ・マリア・ファミリー・サービス・センター Santa Rafaela Maria Family Service Center	聖心侍女修道会	1983.08.01	259名
19	インファンタ・コミュニティ・デベロップメント・センター Infanta Community Development Center	インファンタ・インテグレートド・コミュニティ・デベロップメント・アシスタンス(NGO)	1988.09.01	253名
24	マザー・リタ・バルセロ・コミュニティ・センター Mother Rita Barcelo Community Center	アウグスチノ宣教会	1991.12.01	200名
27	パヌルヤン・センター Panuluyan Center	ラサレット・パナマ・財団	1995.02.01	400名
28	カタグワン・センター Kataguan Center	セントメリー・マグダレン小教区	1995.02.01	220名
30	コミュニティ・パートナーシップ・フォー・インテグレイテッド・チャイルド・デベロップメント・センター Community Partnership for Integrated Child Development Center	チャイルド・ファンド・ジャパン フィリピン事務所	1996.01.03	262名
34	NDBRCFI・ラネスティン・デベロップメント・センター NDBRCFI LANESTIN Development Center	ノートルダム・ビジネス・リソース・センター財団	1996.03.18	350名
35 ^{*2}	セント・マグダレーヌ・オブ・カノッサ・センター St. Magdalene of Canossa Center	カノッサ修道会	1996.08.01	300名
40	パトング・トライバル・コミュニティ・デベロップメント・センター Patong Tribal Community Development Center	カサレス・ソーシャル・アクション財団	1997.11.01	200名
41	インマヌエル・ルーラル・デベロップメント・センター Immanuel Rural Development Center	ハニワイ・カルバリオ・コミュニティ・センター(NGO)	1998.11.01	350名
42	マザー・イグナシア・ナショナル・ソーシャル・アクション・センター Mother Ignacia National Social Action Center	レリジャス・オブ・バージン・メアリー修道会	1999.01.01	250名
44	セント・フランシス・センター・インテグレイテッド・エリアデベロップメント・フォー・オーロラ Saint Francis Center-Integrated Area Development for Aurora	オーロラ州総合地域開発協会(NGO)	2001.08.01	210名
46	アウ・レイディ・オブ・ナザレス・チルドレン・センター Our Lady of Nazareth Children Center	メアリー財団	2002.05.15	150名
47	タブク・ルミアワアン・センター Tabuk Lumin-awa-an Center	タブク代牧区	2003.01.01	83名
48	ペドロ・カルングソッド・ピース・センター Pedro Calungsod P.E.A.C.E. Center	セイビア大学アテネオ・デ・カガヤン	2003.01.01	250名
49	アルダースゲート・クリスチャン・チャイルド・センター Aldersgate Christian Child Center	アルダースゲート大学	2003.06.01	200名
50	チルドレンズ・エドゥケーション アンド・ウェルフェア・アシスタンス Children's Education and Welfare Assistance	ノートルダム・キダパワン大学	2004.06.01	150名
51	リホック・バタ・デベロップメント・センター Lihok Bata Development Center	ミンダナオ・リソース・インスティテュート・フォー・コミュニティ・デベロップメント(NGO)	2006.06.01	250名

*1.チャイルド定員数には、スポンサーの紹介を待っているチャイルドの数も含まれています。 *2.センター名が変更されました。

スリランカ協力センター				
センター番号	協力センター名	協力センターの運営団体	支援開始日	チャイルド定員数 ^{*3}
4049	プッタラム・エリア Puttalam Area	チャイルド・ファンド・スリランカ	2006.10.31 (チャイルド・ファンド・ジャパン として2007.01.25~)	1,300名
4231	ティー・プランテーション・エリア Tea Plantation Area	チャイルド・ファンド・スリランカ	2005.1.26 (チャイルド・ファンド・ジャパン として2009.4.1~)	4,000名

*3.チャイルド定員数は、チャイルド・ファンド・ジャパン以外の支援国との合計です。

ネパール協力センター				
センター番号	協力センター名	協力センターの運営団体	支援開始日	チャイルド定員数 ^{*4}
60	エデュケーション・フォー・ホープ Education for Hope	RBPW (ラメチャップ・ビジネス&プロフェッショナル・ウイメン)	2010.4.1	350名

*4.チャイルド定員数には、スポンサーの紹介を待っているチャイルドの数も含まれています。

支援プロジェクト

貧困に起因する様々な問題の中で、特定の開発課題に応える支援事業です。2012年度は、フィリピンで2件、ネパールで2件のプロジェクトを実施しました。

支援プロジェクト 1 フィリピン パラワン少数民族生活改善プロジェクト

協力団体：AMP-IPM (Augustinian Missionaries of the Philippines Indigenous Peoples Mission)
*カトリック修道会であるフィリピン・アウグスチノ宣教会が行う社会事業部門で、少数民族パラワン族の文化継承、保健・栄養改善・教育活動を行う
協力期間：2009年10月1日から2012年9月30日(第3期)
支援対象：パラワン州ブルックスポイント町に住むパラワン族450世帯
報告期間：2011年10月1日から2012年9月30日
支援規模：1,041,443.46ペソ(約2,395,319円:使用レート1ペソ=2.30円)
*為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。



マラリアの検査を受ける子ども

プロジェクトの背景と目的

少数民族パラワン族は、パラワン島外からの移住者に土地を奪われ、行政サービスが十分に行き届かない山間部に追われ、マラリアなどの感染症、栄養不良、慢性的な水不足に苦しめられてきました。本プロジェクトはパラワン族の人々の生活改善をめざし、持続的な能力強化を中心とした活動を続けてきました。

2012年度の総括

最終年度となる今期は、地域の子どもたちや成人を対象に以下の活動を継続し、2003年から9年間続いたプロジェクトの締めくくりを迎えました。

- ① 幼児教室を通じた、パラワン族の伝統文化の継承や学習の強化を行いました。
- ② 補食プログラムや子どもたちの疾病の早期発見、治療活動を行いました。
- ③ 成人識字教室受講者から122名が教育省の審査を受け卒業試験に合格しました。
- ④ 住民の中から育成された15名のパラリーガル・ボランティアが追加研修を受け、先祖伝来の土地の保存区域設定に向けた議論が本格化しました。
- ⑥ 補助教員として活躍する住民たちへの研修が継続されました。



コミュニティにも活気が伝統的な遊びバビティン*の様子
*誕生日やクリスマスに天井に吊るしたキャンディーやチョコを下からジャンプしてとる

支援プロジェクト 2 フィリピン 子どもが読書に親しむプロジェクト

協力団体：チャイルド・ファンド・ジャパン フィリピン事務所、National Bookstore Foundation、ピサヤとミンダナオの参加センター(30, 41, 34, 48, 50, 51)
協力期間：2012年4月1日から2012年5月31日
支援対象：対象地域の公立小学校19校の4年生担当教員41人、参加のあった校長、市役所担当者計3人、4年生の生徒1,568人
報告期間：2012年4月1日から2012年5月31日
支援規模：1,603,166ペソ(約3,687,281円:使用レート1ペソ=2.30円)
*為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。



教員研修。熱気が伝わってきます。

プロジェクトの背景と目的

フィリピンでは、小学校の第1学年に入学した子どもが最終学年まで残る割合は7割(世界子供白書2009)で、その背景には貧困問題があり、教育の機会を享受できない環境に暮らす子どもたちへの対応が課題となっています。教育予算も十分ではなく、人口増加による公立小学校の教室不足、教員の質の低下は近年大きな問題となっています。

さらに、公立小学校では、4年生を境に退学する子どもの数が増加します。さうだいの世話や家事の手伝いなど、家事労働の担い手としての役割が大きくなる一方、学校の授業についていくことが難しくなり、勉強への興味が薄れ、中退してしまうのです。一方で、この年代の子どもは本来、読書を楽しみ、読書を通じて知識を吸収し、考える力を育むことができる成長期にあります。

本プロジェクトは、公立小学校の教育の質を改善し、小学校の4年生に在籍する子どもを対象に、本を読む力、本から学習する力を育むことを目的として2010年度から3カ年計画で年度ごとに対象地域を移して実施しています。



読書時間。気に入った同じ本を何度も繰り返し読む子どももいます。

2012年度の総括

ギマラス、ジェネラル・サントス、カバツアン、イロイロ、カガヤン・デ・オロ、キダパワン、ディボログにある公立小学校を対象に、地域行政関係者の参加も得て教員研修、絵本の配布、読書月間、学習用書籍の配布などの活動を実施しました。子どもたちに読書プログラムの感想を聞いたところ、「色とりどりの絵のついた本が好き」という声や、「読書の時間をもっとあるといい」という声が聞かれました。3カ年のプロジェクト全体の支援実績としては、57校の公立小学校の161人の教員を対象とした研修を通じ、3,749人の4年生在籍児童が読書プログラムに参加し、19,964冊の書籍が配布されました。

支援プロジェクト 3 ネパール 子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト

協力団体：RBPW (Ramechhap Business & Professional Women)
*ネパールの山間部ラメチャップ郡を拠点とするNGO。女性と子どもの権利推進を目標に活動を行なう。
 協力期間：2011年4月1日から2016年3月31日
 支援対象：ラメチャップ郡の3カ村の公立16校に通う生徒(約2,800名)、保護者、PTAと学校運営委員会のメンバーなど合計約8,800人
 報告期間：2012年4月1日から2013年3月31日
 支援規模：3,547,335.88ルピー(約3,849,746円)使用レート1ルピー=1.08525円)
*為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。

プロジェクトの背景と目的

地域の多くの学校は、老朽化した校舎、不足する設備、生徒の低い出席率と習熟度という問題を抱えています。このプロジェクトでは、子どもたちが楽しく勉強できるように環境を整え、生徒の出席率と成績が向上することを目的としています。

2012年度の総括

今年度は、2校で5教室の校舎建設、2校で13教室の校舎補修、1校で校庭整備、3校で飲料水タンクの建設を支援しました。また、14校それぞれのニーズに合わせ、幼稚部と低学年のためにカーペット・座卓・座布団、黒板・棚などを支援しました。小学校が遠い2つの地域では、学校や保護者と協力して、集落に幼稚部を開設し、19名の子どもが通い始めました。このうちの1つの地域では、保護者が幼稚部のための教室を作りました。また、36名のボランティア教員の報酬の38%を支援し、複式学級の数を減らしました。学校運営委員会やPTA役員に対しては「子どもにやさしい」学校環境に関する研修、教師に対しては郡教育事務所長を招聘して「質の高い教育」に関するワークショップを行いました。これらの結果、出席率が75%以上の生徒の割合が、昨年度の57%から65%に増えました。



新しく建てられた幼稚部の建物



教員対象の研修

支援プロジェクト 4 新支援地域スタートアップ・プロジェクト

協力団体：GMSP (Gramin Mahila Srijansil Pariwar)
*ネパールの山間部シンドゥバルチョーク郡を拠点とし、女性や子ども、抑圧されたグループの権利の推進を行なうNGO。
 Tuki Association Sunkoshi
*ネパールの山間部シンドゥバルチョーク郡を拠点とし、子どもや家族の経済・社会的な生活向上を目指すNGO。
 協力期間：2012年11月23日から2013年3月31日
 支援対象：シンドゥバルチョーク郡の4カ村(パンゲタル村、ドゥスクン村、タウタリ村、ベトゥク村)に住む約2,700世帯の住民
 報告期間：2012年11月23日から2013年3月31日
 支援規模：1,658,417.65ルピー(約1,799,797円)使用レート1ルピー=1.08525円)
*為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。

プロジェクトの背景と目的

2014年度のスポンサーシップ・プログラム開始をめざし、ネパール政府と調整しつつ、新たな支援地域とパートナー団体を選定し、事業を始めることを目的としています。

2012年度の総括

2012年7月に、シンドゥバルチョーク郡(カトマンズ東方に位置し、郡総合開発順位はネパール全75郡の内43位)でラメチャップ郡に続く二番目のスポンサーシップ・プログラムを実施することを決定しました。郡行政関係者と協議をした後、パートナー団体を募集し、GMSPとTUKIの2団体をパートナー団体として決定しました。9月にスポンサーシップ・プログラムを始める村を選定し、11月に2団体との事業合意書を締結し、スタッフ募集、フィールド事務所の設置、事業・会計に関するスタッフ研修を行いました。2013年3月までスタッフは村を巡回し、地域の人々にスポンサーシップ・プログラムの説明を行うとともに、村落の状況を把握することに努めました。



郡行政関係者との話し合い



不便な教室で勉強する子どもたち

緊急・復興支援事業

台風や地震などの自然災害の被災者や、地域紛争による避難民を支援する事業です。2012年度は、フィリピンで台風被害の支援事業2件と、東日本大震災への緊急・復興支援事業を実施しました。

緊急・復興 支援事業 1

フィリピン台風被害支援プロジェクト

協力団体：①センター48(カガヤン・デ・オロ) ②MINRICE(元センター23/イリガン)
協力期間：2011年12月19日から2012年11月15日
支援対象：①62世帯 ②55世帯
報告期間：2012年4月1日から2012年11月15日
支援規模：①カガヤン・デ・オロ 337,601.75ペソ(約776,484円;使用レート1ペソ=2.30円)
②イリガン 1,368,168ペソ(約3,146,800円;使用レート1ペソ=2.30円)
*為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。

プロジェクトの背景と目的

2011年12月16日から18日にかけてミンダナオ島を襲った台風21号(国際名Washi/フィリピン名Sendong)により、カガヤン・デ・オロ市及びイリガン市は地滑りや洪水といった甚大な被害を受けました。カガヤン・デ・オロ市の被災地域に暮らしていたスポンサーシップ・プログラム支援世帯62世帯が被災し、チャイルド1名と幼い子どもを含む7名が行方不明になりました。イリガン市では元チャイルドを含む103名の命が失われました。チャイルド・ファンド・ジャパンは2011年12月19日より支援事業を実施しており、2012年度も引き続き食糧の配給や家屋の修復などの支援を継続しました。

2012年度の総括

センター48はカガヤン・デ・オロ市および他の支援団体と連携しながら、前年度に実施した食糧・衣類・学用品の支給、医療支援、心のケア、家屋の修復支援や地域の学習センターの修繕支援に加え、卒業予定のチャイルド13名の卒業にかかる費用や衣類などを支援しました。また、6月の新年度に確実に進級手続きを行えるよう、チャイルドのきょうだい129名に対しても学用品を支給し、支援対象の62世帯へ追加の食糧支援を行いました。被災した子どもと家族に対しては、引き続き、スポンサーシップ・プログラムを通して支援します。イリガン市では、元センター23を運営していたMINRICEを通して、緊急支援を行いました。具体的には元支援世帯の子ども161名の就学支援として学用品や制服、靴を支給しました。また、家屋倒壊の被害を受けた50の世帯に対して家屋修復(建設)支援を行いました。家屋修復(建設)は、雨季にさしかかったこと、ココヤシ材などの建設資材および大工の需要が逼迫していたことなどから着工が遅れ、完成までに時間を要する結果となりました。プロジェクトでは、住民たちに「パヒナ」と呼ばれる相互扶助グループの結成を働きかけ、それぞれの家屋の修復(建設)作業を順番に行い、建設を完了しました。



避難所の様子



臨時に引かれた水道で喉の渇きを潤す被災した子どもたち

緊急・復興 支援事業 2

フィリピン台風被災地復興支援プロジェクト

協力団体：ダバオ医科大学プライマリー・ヘルスケア研修所
協力期間：2013年1月10日から2013年4月30日
支援対象：コンポステラ・バレー州ニューバタアン町内のアンダップ村、
コゴノ村(元センター20支援地域)の子ども120人、100世帯
報告期間：2013年1月10日から2013年4月30日
支援規模：1,050,000.00ペソ(約2,415,000円;使用レート1ペソ=2.30円)
*為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。

プロジェクトの背景と目的

2012年12月4日に台風24号(国際名Bopha/フィリピン名Pablo)がミンダナオ島を直撃しました。政府は12月25日現在、死傷者数3,733名、行方不明者834名と発表しています。特に、1995年から2002年まで、チャイルド・ファンド・ジャパンのスポンサーシップ・プログラム支援地域であったニューバタアン町コゴノ村とサンロケ村での被害が大きく、897世帯(2,939人)が被災しました。本プロジェクトは、住宅再建と子どもたちの心のケアを中心に、被災地域の復興を後押しすることを目的に実施しました。

2012年度の総括

支援対象地域は周囲を山に囲まれた谷合の町で台風被害を受けにくいとされていましたが、大型台風による強風と洪水は、安全地域であると思われていた地域にも被害をもたらしました。さらに、台風通過後には土砂が乾燥、空中に拡散し、子どもたちの間で気管支炎などの症状が流行しました。本プロジェクトは、町の社会福祉開発事務所と連携し100世帯に住宅資材を提供しました。さらに2月には対象2カ村で子ども各60人を対象とした心のケアのプログラムを実施しました。プロジェクト終了後も子どもたちへのケアが継続するよう、村の保健・教育分野の職員計21名の参加も得て、年齢に応じた子どもへの対応法の理解の習得を図りました。4月には、各30人に対しフォローアップのプログラムを実施しました。また、地域住民に対しては災害に強い地域づくりについての研修を行いました。



台風で倒壊した家。(コゴノ村)



救援物資の配布(コゴノ村)

2012年度 会計報告

書式第12号（法第28条関係）

特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

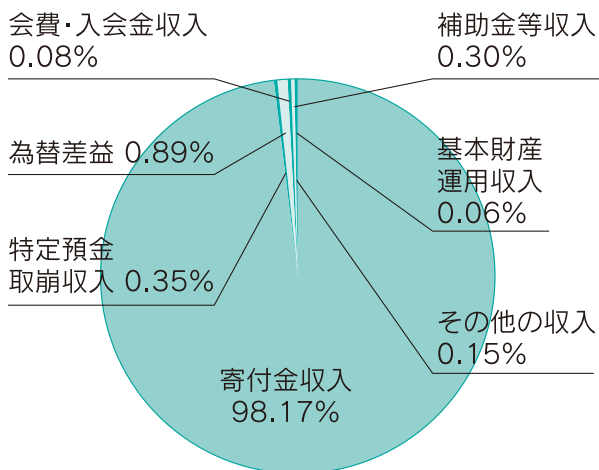
一般会計

自 2012年 4月 1日 至 2013年 3月31日

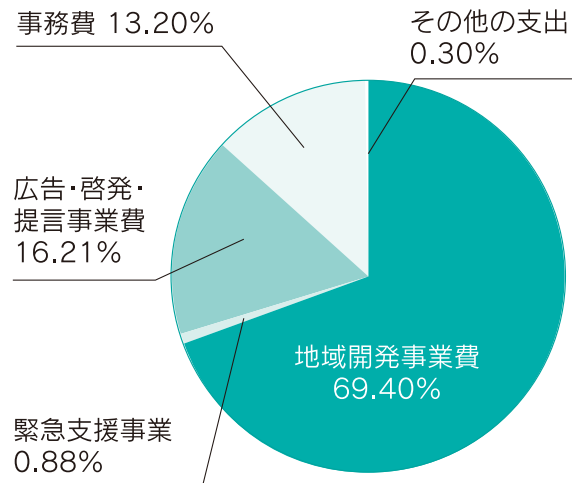
(単位：円)

[収入の部]		
会費・入会金収入	224,000	
補助金等収入	830,000	
基本財産運用収入	159,627	
寄付金収入	270,114,186	
特定預金取崩収入	960,000	
その他収入	403,340	
為替差益	2,458,637	
[収入の部] 合計		275,149,790
[支出の部]		
【事業費】		
地域開発事業費	170,981,082	
緊急支援事業	2,180,000	
広報・啓発・提言事業費	39,935,931	
【事業費】 計		213,097,013
【事務費】		
事務人件費	18,922,775	
事務管理費	13,610,129	
【事務費】 合計		32,532,904
【その他支出(預金繰入等)】		
特定預金繰入	738,241	
その他支出	4,492	
【その他支出(預金繰入等)】 合計		742,733
[支出の部] 合計		246,372,650
当期収支差額		28,777,140
前期繰越収支差額		56,613,528
次期繰越収支差額		85,390,668

収入



支出



特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

一般会計

2013年 3月31日 現在

(単位:円)

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
現金預金	81,071,254	未払金	5,334,011
前払費用	219,333	預り金	1,287,416
貯蔵品	6,449,700	【流動負債】計	6,621,427
未収金	4,186,950	【固定負債】	
その他流動資産	84,858	退職給与引当金	4,140,806
【流動資産】合計	92,012,095	【固定負債】計	4,140,806
【固定資産】		負債の部合計	10,762,233
土地	16,140,000	正味財産の部	
建物	96,944,533	(うち基本金)	
研修基金	83,460,000	土地	16,140,000
子どもと地球を守る基金	257,850,211	建物	96,944,533
固定資産物品	897,819	研修基金	83,460,000
援助準備積立金預金	49,540,000	子どもと地球を守る基金	257,850,211
緊急援助特定預金	30,000,000	計	454,394,744
細野子ども成長支援ファンド*	17,671,061	(うちその他)	187,354,151
修繕積立金預金	5,000,000		
退職給与積立金預金	2,995,409	正味財産の部合計	641,748,895
【固定資産】合計	560,499,033	負債・正味財産の部合計	652,511,128
資産の部合計	652,511,128		

【貸借対照表の注記】

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却方法

見積耐用年数に基づいて定額法で計算しています。

(2) 引当金の計上基準

・退職給与引当金

職員の退職金に備えるため、期末要支給額の全額を計上しています。

(3) 資金の範囲

流動資産、流動負債を含めています。

(4) 特別会計の設置

東日本大震災緊急・復興支援にかかわる事業に関して特別会計を設置しています。

当期をもってこの事業は終了しました。

2. 固定資産の取得原価、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりです。(単位:円)

	取得原価	減価償却累計額	当期末残高
建物	113,252,955	16,308,422	96,944,533
固定資産物品	5,613,625	4,715,806	897,819
合計	118,866,580	21,024,228	97,842,352

子どもと地球を守る基金元本のうち11,758,273円は小松文子記念基金

子どもと地球を守る基金元本のうち15,470,100円は尾崎直道基金

子どもと地球を守る基金元本のうち10,000,000円は磯部陽子記念基金

子どもと地球を守る基金元本のうち80,000,000円は本木記念基金

子どもと地球を守る基金元本のうち12,421,838円は妹尾誠子記念基金

チャイルド・ファンド・ジャパンでは相続財産のご寄付や遺贈に関するご相談をお受けしております。 連絡先:募金グループ

特定非営利活動に係る事業会計正味財産増減計算書

一般会計

自 2012年 4月 1日 至 2013年 3月31日

(単位:円)

【増加の部】

【資産増加額】

当期収支差額

28,777,140

特定預金繰入額

742,733

【資産増加額】 合計

29,519,873

【負債減少額】

退職給与引当金取崩

43,120

【負債減少額】 合計

43,120

【増加の部】 合計

29,562,993

【減少の部】

【資産減少額】

固定資産減価償却額

2,326,123

特定預金取崩

43,120

為替換算調整額

81,389

その他資産減少額

986,628

【資産減少額】 合計

3,437,260

【負債増加額】

退職給与引当金繰入額

518,812

【負債増加額】 合計

518,812

【減少の部】 合計

3,956,072

【期末正味財産合計額】

当期正味財産増加額

25,606,921

前期繰越正味財産額

616,141,974

当期正味財産合計

641,748,895

書式第12号(法第28条関係)

特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

東日本大震災緊急・復興支援特別会計 自2012年4月1日 至2013年3月31日 (単位:円)

[収入の部]	
【東日本大震災支援金収入】	
大震災海外助成金収入	264,108
大震災寄付金収入	7,731,415
【東日本大震災支援金収入】 合計	7,995,523
【その他収入】	
その他収入	87,984
【その他収入】 合計	87,984
[収入の部] 合計	8,083,507
[支出の部]	
【事業費】	
【緊急支援事業】	
緊急支援事業	65,696,477
緊急支援セミナー費	207,170
緊急支援印刷製本費	7,516,256
緊急支援通信運搬費	881,241
緊急支援旅費交通費	10,183,958
緊急支援水道光熱費	640,889
緊急支援消耗品費	358,931
緊急支援什器備品費	212,870
緊急支援役務費	1,245,066
緊急支援賃借料	1,469,686
緊急支援会議費	443,928
緊急支援その他雑費	165,831
緊急支援人件費	15,478,907
緊急支援法定福利費	2,282,351
【緊急支援事業】 合計	106,783,561
【管理費】	
【緊急支援管理費】	
緊急支援管理費	13,953,695
【緊急支援管理費】 合計	13,953,695
[支出の部] 合計	120,737,256
当期繰越収支差額	△ 112,653,749
前期繰越収支差額	112,653,749
次期繰越収支差額	0

チャイルド・ファンド・ジャパンの会計監査について

チャイルド・ファンド・ジャパンでは法人の監事が内部監査を行うとともに、監査法人による外部監査を受けています。

監査報告書

協和監査法人から提出された監査報告書です。

書式第11号(法第28条関係)

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

東日本大震災緊急・復興支援特別会計 2013年3月31日 現在 (単位:円)

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
【流動資産】 合計	0	【流動負債】 計	0
		負債の部合計	0
		正味財産の部	
【固定資産】		【正味財産】	
【固定資産】 合計	0	【正味財産】 計	0
		正味財産の部合計	0
資産の部合計	0	負債・正味財産の部合計	0

東日本大震災緊急・復興支援にかかわる事業に関して特別会計を設置しています。当期をもってこの事業を終了しました。

特定非営利活動に係る事業会計正味財産増減計算書

東日本大震災緊急・復興支援特別会計 自2012年4月1日 至2013年3月31日 (単位:円)

[増加の部]	
【資産増加額】	
【資産増加額】 合計	0
【負債減少額】	
【負債減少額】 合計	0
[増加の部] 合計	0
[減少の部]	
【資産減少額】	
当期収支差額	112,653,749
保証金減少額	72,000
【資産減少額】 合計	112,725,749
【負債増加額】	
【負債増加額】 合計	0
【減少の部】 合計	112,725,749
【期末正味財産合計額】	
【期末正味財産合計額】 合計	0
【当期正味財産増加額】	
【当期正味財産増加額】 合計	△ 112,725,749
前期繰越正味財産額	112,725,749
当期正味財産合計	0

独立監査人の監査報告書

2013年5月23日

特定非営利活動法人
チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長 櫻岡 正雄 殿

協和監査法人
代表社員 公認会計士 高山昌茂
業務執行社員



当監査法人は、特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンの2012年4月1日から2013年3月31日までの2012年度の下記の財務諸表等(財務諸表等に対する注記を含む、以下同じ。)について監査を行った。

- 記
- 一般会計の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録
 - 東日本大震災緊急・復興支援事業特別会計の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる非営利法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる非営利法人会計の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表等監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見解の判断も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる非営利法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の収支、正味財産増減及び財産の状況をすべて重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

東日本大震災緊急・復興支援事業

協力期間：2011年3月15日～2013年3月31日

支援対象：福島県、宮城県、岩手県の被災地域に暮らす子ども、地域住民と、被災地域で支援活動を行う方々

報告期間：2011年4月1日～2012年3月31日

支援規模：120,737,256円

活動概要

2011年3月11日の東日本大震災の発生を受け、3月17日に福島県南相馬市に緊急支援物資をお届けすることから、緊急・復興支援事業に着手しました。その後2011年9月までに「緊急支援物資の提供」、「We are with you !プロジェクト」、「子どものこころのケアの手引きの作成」、「子どものこころのケアのワークショップ・研修」、「対人援助者のためのグリーンワークプログラム」などの活動を実施しました。

2011年9月から岩手県大船渡市に活動を集約する体制を徐々に整備し、2012年1月以降は、「岩手県大船渡市復興支援プログラム」として以下の3分野からなる活動を実施しました。

- 1 仮設住宅団地のコミュニティ形成プロジェクト
- 2 子どもの生活充実プロジェクト
- 3 子どものこころのケアとグリーンワークプロジェクト

2年間にわたり実施した東日本大震災緊急・復興支援事業は、2013年3月31日をもって全ての活動を終了しました。

実施体制

2011年4月より、緊急・復興支援事業の専任スタッフとして、プロジェクト・マネージャーが配置されました。その後、仮設住宅団地のコミュニティ形成プロジェクト担当、子どもの生活充実プロジェクト担当、子どものこころのケアとグリーンワークプロジェクト担当の3名のプロジェクト・コーディネーターが加わり、2012年1月に「岩手県大船渡市復興支援プログラム」の実施体制が整いました。

活動内容

1 仮設住宅団地のコミュニティ形成プロジェクト

地域の自立と長期的な生活再建を目的として、仮設住宅団地のコミュニティ形成プロジェクトを行いました。仮設住宅団地で住民の方々の参加を得てベンチや掲示板作り、夏祭りや干し柿づくり等のイベントに加え、岩手県最大の仮設住宅団地では、コミュニティ・ファーム活動が本格化しました。また、自治会支援の一環として地域公民館建設支援を行いました。



コミュニティ・ファームの参加者と収穫された野菜

案件名	年	月日	場所	内容
ベンチ・掲示板作り(前年度から継続)	2011	7月15日～		
「はまっべし」開催(前年度から継続)	2011	8月27日～	大田団地など計5カ所	持ち寄り食事会
長洞仮設住宅団地 コミュニティ・ファーム「友結ファーム」(前年度から継続)	2012	2月～	長洞	コミュニティ・ファーム活動支援
長洞仮設住宅団地自治組織形成(前年度から継続)	2012	3月4日	長洞	長洞地域公民館 総会
夏祭り(前年度から継続)	2012	8月14日	杉下	納涼盆踊り大会共催
	2012	8月18日	長洞	夏祭り共催
長洞仮設住宅団地 地域公民館建設	2012	10月12日	長洞	完成引渡式
干し柿作り(前年度から継続)	2012	11月	清水団地等7カ所	干し柿作り
イベント関連支援(前年度から継続)	2012	10月6日、14日、20日	山岸、杉下、大田	芋っこ会、芋の子汁会、秋の味覚祭り等
聞き取り調査(前年度に続き2回目)	2012	11月～2月	永沢、山岸、大田、平林、山馬越、地/森	

聞き取り調査

大船渡市での活動は、まず、現状を把握するために、6カ所の仮設住宅団地に暮らす124名の方を対象として、2011年5月から7月の期間に聞き取り調査を実施することから開始しました。その結果、震災前のもとのコミュニティが分断されていること、知らない人が多く治安上の不安を持つ住民がいること、コミュニティのつながりからはずれ、孤立している住民もいることなどが明らかになり、大船渡市復興支援プログラムの策定に繋がりました。

2012年度は状況の変化を見るために、前回の調査に応じてくださった124名の方を対象に、2012年11月から2013年2月にかけて再度聞き取り調査を行いました。転居などによりコンタクトが取れなかった方、聞き取りを辞退された方などを除く81名の方から回答が得られました。

その結果、一回目の調査では「隣近所にどんな人が住んでいるのかわからない」と答えていた方が「集会所のイベント等を通じて、顔見知りや知り合いが増えている」と回答するなど、イベント等

が新たなつながりのきっかけとなっていたことがわかりました。また、犬の散歩の時や洗濯物を干している時、花に水をやっている時など、日常生活の中で自然と知り合ったという回答も多くありました。ほとんど寝たきりの方や毎日部屋に閉じこもりがちな方から「近隣の人が声をかけてくれるので助かっている」という声が聞かれる仮設住宅団地もありました。

しかし、仮設住宅団地の大きさや入居者の状況によって差はあり、「依然として顔も分からない人がいる」という方や「仮設住宅内の出入りが激しい」と回答された方もいました。仮設住宅団地での生活は一時的なものとなることが多く、そこにコミュニティ形成を進めることの難しさがあります。子どもが安心して生活できるような、よりよいコミュニティ形成のため、住民同士の交流を促すようなイベントを自治会が今後も継続して実施すること、住民による防犯体制が強化されること、住民同士の定期的な話し合いの機会が持たれることなどの必要性が浮かび上がりました。

2 子どもの生活充実プロジェクト

被災地域では、学校の多くの設備が損壊したり、校庭に仮設住宅が建設されるなど、子どもの健全な成長に必要な教育活動を行うことが難しい状況でした。公的支援もありましたが、それが受けられない場合や、実施までに長い時間がかかる場合も少なくありませんでした。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、被災地における子どもの生活の充実、また、そのための地域の取り組みへの支援を目的として、前年度に続き、修学旅行など課外活動のための資金や、学校設備の支援、芸術に触れる機会、卒業アルバム制作などを支援しました。



沿岸南部少年野球大会で優勝した大船渡野球スポーツ少年団

案件名	年	月日	場所	内容
鯉のぼり子どものつどい	2012	5月5日	福祉の里センター	第45回鯉のぼり子どもの集い参加協力
赤崎中学校備品整備	2012	7月	赤崎中学校	備品支援
社会科見学・遠足等課外活動の機会の保障(前年度から継続)	2012	7月~9月	大船渡市内小中学校のうち15校	修学旅行の費用の一部支援
小学校陸上競技記録会 交通費支援	2012	9月19日	大船渡市民文化会館	参加する選手とその応援団の会場までの交通費(バス)を支援
劇団四季「こころの劇場」鑑賞会交通費支援	2012	10月1日	リアスホール	会場までの交通費(バス)を支援
小中学校音楽会交通費支援	2012	10月	リアスホール	参加児童・生徒の会場までの交通費(バス)を支援
沿岸南部少年野球大会(前年度に続き2回目)	2012	10月~11月		実施支援
卒業アルバム制作支援(前年度に続き2回目)	2013	3月	大船渡市内小中学校20校	

3 子どものこころのケアとグリーンワークプロジェクト

東日本大震災から1年が経過し、物質的な支援からこころの支援へと焦点が移る中、こころのケアに従事する専門家の数が絶対的に不足していると言われていました。また、被災地域で中長期的に対人支援を実施している方々が、その活動を継続していくためのサポートも必要とされていました。

こうした状況を踏まえ、チャイルド・ファンド・ジャパンはルーテル学院大学(東京都三鷹市)との協働により、大船渡市内の保育園を対象とした「子どものこころのケア」のための個別相談・講演会を実施しました。また、市社会福祉協議会と連携し、仮設住宅団地で生活する方々への支援活動を担う支援員や生活支援相談員を対象とした「グリーンワーク*」の専門家による参加型ワークショップを行いました。

*グリーンワーク…不安や悲しみといった自分の感情に向き合い、立ち直っていくという作業のこと。



グループ討議を行う生活支援相談員

案件名	年	月日	場所	内容
被災後の子どものこころのケアの手引き (前年度からの継続)	2011	4月11日~		手引きの作成、配布
子どものこころのケア (前年度からの継続)	2012	5月10日	岩手県盛岡(情報交流センター「アイーナ」)	(社)岩手県青少年育成県民会議と会員団体25団体
	2012	6月19日	大船渡保育園 赤崎保育園	大船渡保育園の保育士、大船渡保育園に子どもを預けている保護者、赤崎保育園の保育士への個別相談(4名)と講習会(5名)
	2012	8月20日	大船渡保育園 明和保育園	大船渡保育園の保育士、大船渡保育園に子どもを預けている保護者、明和保育園の保育士への個別相談(6名)、講習会(16名、20名)
	2012	9月13日	大船渡保育園	大船渡保育園の保育士、大船渡保育園に子どもを預けている保護者への個別相談(5名)
	2012	10月23日	大船渡保育園 盛保育園	大船渡保育園の保育士、大船渡保育園に子どもを預けている保護者、盛保育園の保育士への個別相談(4名)、講習会(8名)
	2012	12月3日	大船渡保育園	大船渡保育園の保育士、大船渡保育園に子どもを預けている保護者、猪川・赤崎・末崎・明和保育園の保育士への個別相談(5名)と講習会
グリーンワーク(前年度からの継続)	2012	6月16日	福祉の里センター	生活支援相談員17名参加
	2012	9月29日	リアスホール	仮設住宅支援事業 支援員14名参加
	2012	12月16日	福祉の里センター	仮設住宅支援事業 支援員11名参加

活動報告会と感謝の集い

2013年3月31日の活動終了を前に、3月16日に「We are with you! ~私たちはどうつながったか?~」と題した活動報告会を東京で行い、3月20日には岩手県大船渡市で「ありがとう大船渡~さよならだけどさよならじゃない~」と題した感謝の集いを開催しました。感謝の集いでは来場くださった約150名の方々が輪になって「さくら音頭」を踊るなど、文字通りつながりを実感する会となりました。



東京の活動報告会では、協働してくださった方々がパネリストとしてご参加くださり、どのようにお互いがつながったかを振り返りました。

事業評価報告

チャイルド・ファンド・ジャパンが実施した東日本大震災緊急・復興支援事業の、効果・実施体制を評価・検証するために、経営コンサルティング会社であるベイン・アンド・カンパニー*東京オフィスの社会貢献活動による、外部評価を実施しました。同社が作成してくださった事業評価報告は、活動報告書「歩みとともに」に、その一部が原文のまま掲載されています。

*ベイン・アンド・カンパニーは、現在世界31か国に48拠点のネットワークと約5,400名を擁する、世界有数のコンサルティング・ファームです。

東日本大震災緊急・復興支援事業の全期間を記録した活動報告書「歩みとともに」と、記録映像「笑顔をつないで」が完成しました。活動報告書「歩みとともに」(52ページ)は、写真を多用し、東日本大震災の概要、活動報告、事業評価報を掲載しています。記録映像「笑顔をつないで」(21分)は、大船渡市で暮らす多くの方々にもご登場いただき、チャイルド・ファンド・ジャパンが人と人とのつながりを大切に、人本位の支援活動を行ってきたことをお伝えしています。

活動報告書、記録映像(DVD)ともに、希望される方には郵送にてお送りいたします。

事務所(03-3399-8123)までご連絡くださるか、ホームページの資料請求フォームからお申し込みください。

チャイルド・ファンド・ジャパン組織図 / 役員名簿

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン



【理事長】 深町 正信 (学校法人青山学院名誉院長・社会福祉法人基督教児童福祉会理事長・学校法人クラーク学園理事長)

【理事】 伊藤 悟 (青山学院大学宗教部長・教育人間科学部教授)
小澤 淳一 (青山学院初等部宗教主任)
原島 博 (ルーテル学院大学准教授)
小林 毅 (特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン事務局長)

【監事】 奥澤 行雄 (奥澤行雄税理士事務所所長)
向山 功 (株式会社向山商会代表取締役社長)

2013年3月31日現在

チャイルド・ファンド・ジャパン38年の歩み

～支援される国から支援する国へと行われた「愛のバトンタッチ」～

- 1945年 第二次世界大戦終了
- 1948年 キリスト教児童基金(CCF)が日本の戦災孤児へ支援をはじめ
- 1952年 CCFの日本事務所として、社会福祉法人基督教児童福祉会(CCWA)設立
- 1974年 日本が経済成長を遂げてCCFの支援が終了
- 1975年 CCWAは国際精神里親運動部を創設しフィリピンでの支援を開始
- 1991年 東京弁護士会人権賞受賞
- 1995年 ネパールで保健事業の支援を開始
- 2001年 全国社会福祉協議会会長特別表彰受賞
- 2005年 CCWA国際精神里親運動部は法人変更により特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンとして活動を開始
- 2006年 外務大臣表彰受賞
- 2006年 スリランカでスポンサーシップ・プログラムを開始
- 2009年 国税庁長官より「認定NPO法人」に認定される
- 2010年 ネパールでスポンサーシップ・プログラムを開始
- 2011年 東日本大震災緊急・復興支援事業を開始

アカウンタビリティ・セルフチェックについて

チャイルド・ファンド・ジャパンは、2009年12月、「アカウンタビリティ・セルフチェック(ASC)」に取り組みました。ASCは、NGOが組織運営、事業実施、会計、情報公開という4分野で組織の自己診断を行い、組織強化を目指す目的で、チャイルド・ファンド・ジャパンも加盟するNGOのネットワーク団体、国際協力NGOセンター(JANIC)により開発されたものです。

右は、JANICの「アカウンタビリティ・セルフチェック2008」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野について、チャイルド・ファンド・ジャパンが適切に自己審査をしたので、ウェブサイトや年次報告書などで使用を許されています。チャイルド・ファンド・ジャパンのASC実施結果は、チャイルド・ファンド・ジャパンのホームページよりご覧いただけます。
<http://www.childfund.or.jp/?p=268>



私たちは、皆様からの信頼に応える団体として、引き続き自らを高める努力を継続していきます。

free^B ~子どもへの暴力のない世界を目指して~

子どもへの暴力のない世界を目指す グローバルキャンペーンに参加してください!

ミレニアム開発目標(MDGs)の達成期限である2015年を控え、世界各国では、世界の貧困解決のための目標を新たに定める動きが活発になっています。MDGsには、子どもたちへの暴力と搾取のない世界を目指すという目標は盛り込まれず、世界では、子どもの約半数が8歳にまるまでに何らかの暴力を受けるという現実があります。

チャイルド・ファンド・アライアンスは、この問題を次の世代に持ち越すことはできないという強い思いから、子どもたちへの暴力と搾取のない社会づくりを各国政府に働きかける国際キャンペーンを開始しました。世界で10万人の署名を募集しています!

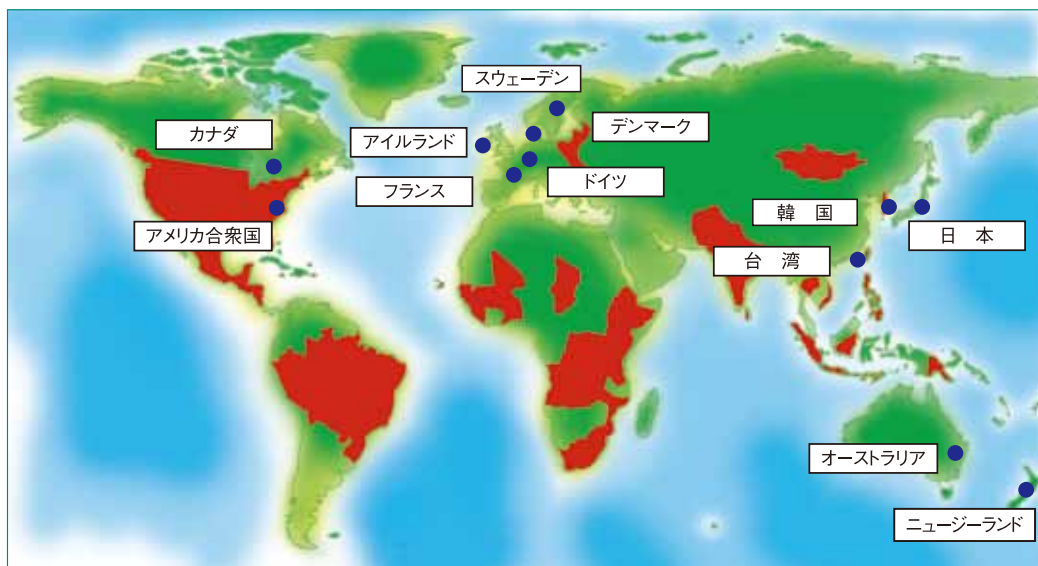


<http://jp.freefromviolence.org/>

チャイルド・ファンド・アライアンスについて

チャイルド・ファンド・アライアンスは、人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ活動を行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

<http://www.childfundalliance.org/>



認証について

チャイルド・ファンド・アライアンスは、プログラム、財務管理、募金、組織運営の4分野で評価指標を定めており、加盟団体は全ての方針で最高水準を保つことが求められています。チャイルド・ファンド・ジャパンはアライアンスの審査を受け、2010年5月、認証(Accredit)されました。

● チャイルド・ファンド・アライアンスの加盟国 ● チャイルド・ファンド・アライアンスの支援地域

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン 2012年度年次報告書

理事長 深町 正信
事務局長 小林 毅
〒167-0041
東京都杉並区善福寺2-17-5
TEL 03-3399-8123
FAX 03-3399-0730
E-mail childfund@childfund.or.jp
URL <http://www.childfund.or.jp>

郵便振替口座 00170-8-196462
加入者名 特定非営利活動法人
チャイルド・ファンド・ジャパン
銀行振込口座 三井住友銀行西荻窪支店
普通預金口座 0920355
口座名 特定非営利活動法人
チャイルド・ファンド・ジャパン

